

魅力と活力ある
県立高等学校づくりに向けて

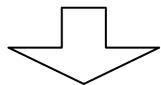
平成22年11月
滋賀県教育委員会事務局

滋賀県内には、こういった高校がどれだけあるの？



【県立高等学校】

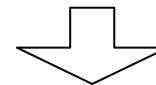
- ・全日制 46校
- ・定時制 単独 2校
全日制との併置 3校
- ・通信制 定時制との併置 1校



普通科、農業学科、工業学科、
商業学科、家庭学科、理数学科、
体育学科、音楽学科、美術学科、
福祉学科、国際学科、総合学科

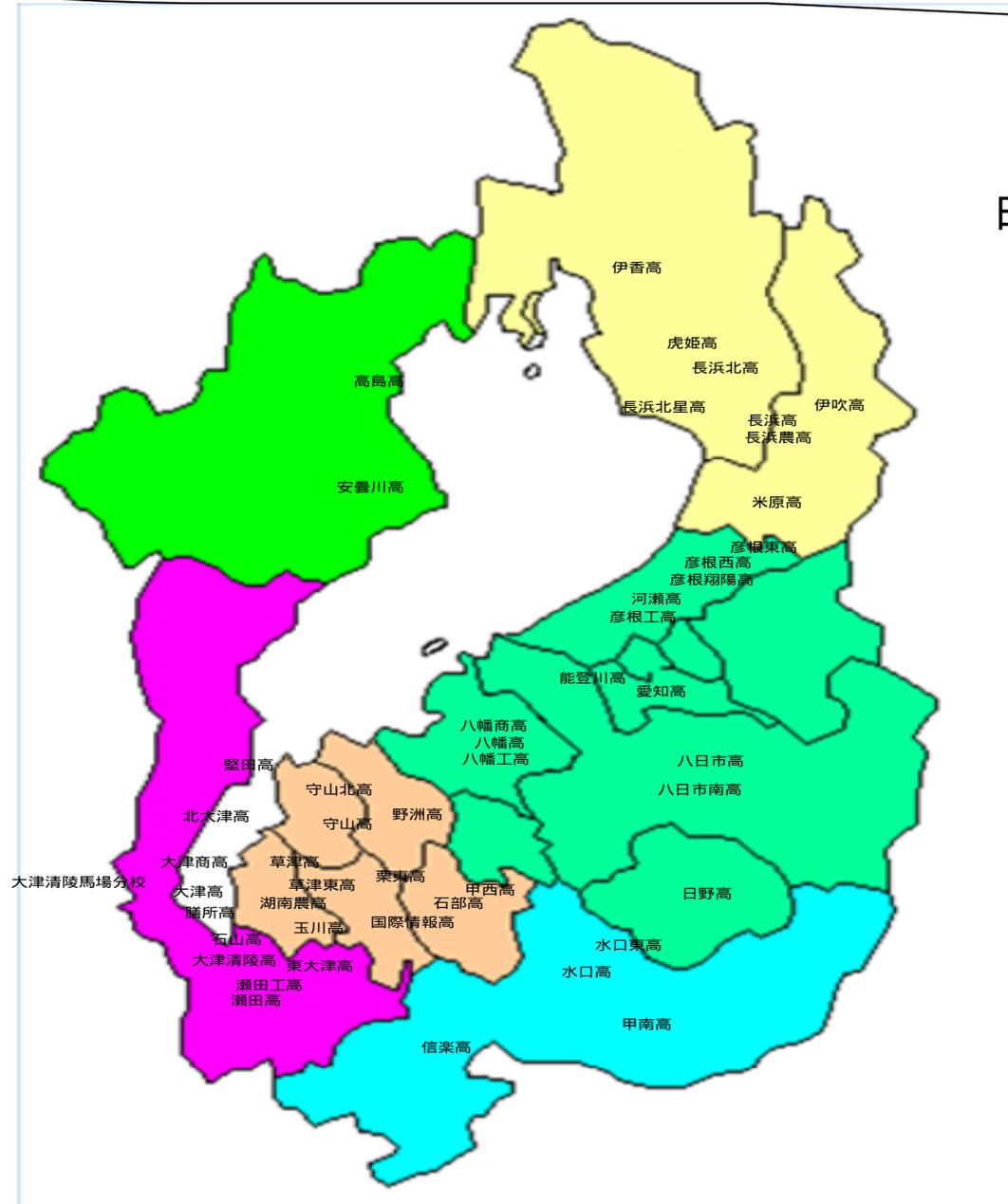
【私立高等学校】

- ・全日制 9校
- ・定時制 全日制との併置 1校
- ・通信制 単独校 2校
定時制との併置 1校

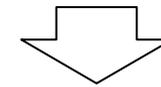


普通科、商業学科、総合学科、
生活創造科、食物調理科、
介護福祉科

県立高等学校はどのように配置されているの？



昭和60年度～平成17年度
6通学区域制
< 大津・湖南・甲賀・
湖東・湖北・湖西 >



平成18年度以降
全県一区制度の導入

滋賀県では、これまでどのような高校改革を行ってきたの？



学科改編

商業科
国際経済科
情報処理科 } 総合ビジネス科
情報システム科

工業化学科 環境化学科 など

特色ある学科

音楽学科、体育学科、美術学科、
福祉学科、理数学科、国際学科
などを設置

平成9年度～ 総合学科の設置

総合学科って何？

普通教育と専門教育
を総合的に行う学科。
希望進路に沿った科
目選択が可能。

中高一貫教育校の設置

中学校における教育および高等学
校における教育を一貫して行う教育
校を3校設置

【河瀬中高、守山中高、水口東中高】

全県一区制度

自分にあった高校、学びたい高校を、
県下全域から、生徒自らが主体的
に選択できるよう、通学区域をなくし、
全県一区とした(平成18年度～)

全県一区制度導
入後も、以前の通
学区に約8割の生
徒が通っている

この他にも

入学者選抜方法の改善、高大連携、高等養護学校併設 など

全国にはどんな特色ある学科やコースがあるの？



【幅広い学びの内容の学科】

石川県立能登高校 地域創造科

- 農業、食品加工、商業・福祉等の幅広い学習を通して、地域産業を担う人材を育成

【多部制単位制高校】

青森県立八戸中央高校 普通科

- 午前、午後、夜間の3部の中から自分で希望する部を選択し、柔軟な学びが可能

【地域との連携】

青森県立十和田西高校 観光科

- 市観光協会、ボランティアガイドの会等での実体験を通じた知識・技能を育成

【資格取得関連】

奈良県立磯城野高校

【フードデザイン科 パティシエコース】

- 菓子製造に関する知識・技能を学び、高校卒業時に製菓衛生師国家試験受験資格取得が可能

いま、滋賀県の県立高等学校はどんな課題に直面しているの？



生徒数の減少(小さな規模の学校増)

・多様で個性的な生徒との出会いが少なく、切磋琢磨する機会が減っている

・選択できる科目数が限られ、生徒の興味・関心にあった学習ができない

・多様な教師との出会いが少ない
・教科指導や校務が多岐にわたり、生徒との関わりが希薄になる

・部活動のメニューが少ない
・部員集めに苦勞し、公式試合の出場に支障を来している

・文化祭や体育祭などの学校行事や学校活動で活気が見られない

大きな規模の学校

・施設・設備等の使用において制約が生じることがある

社会の急激な変化 生徒の多様化

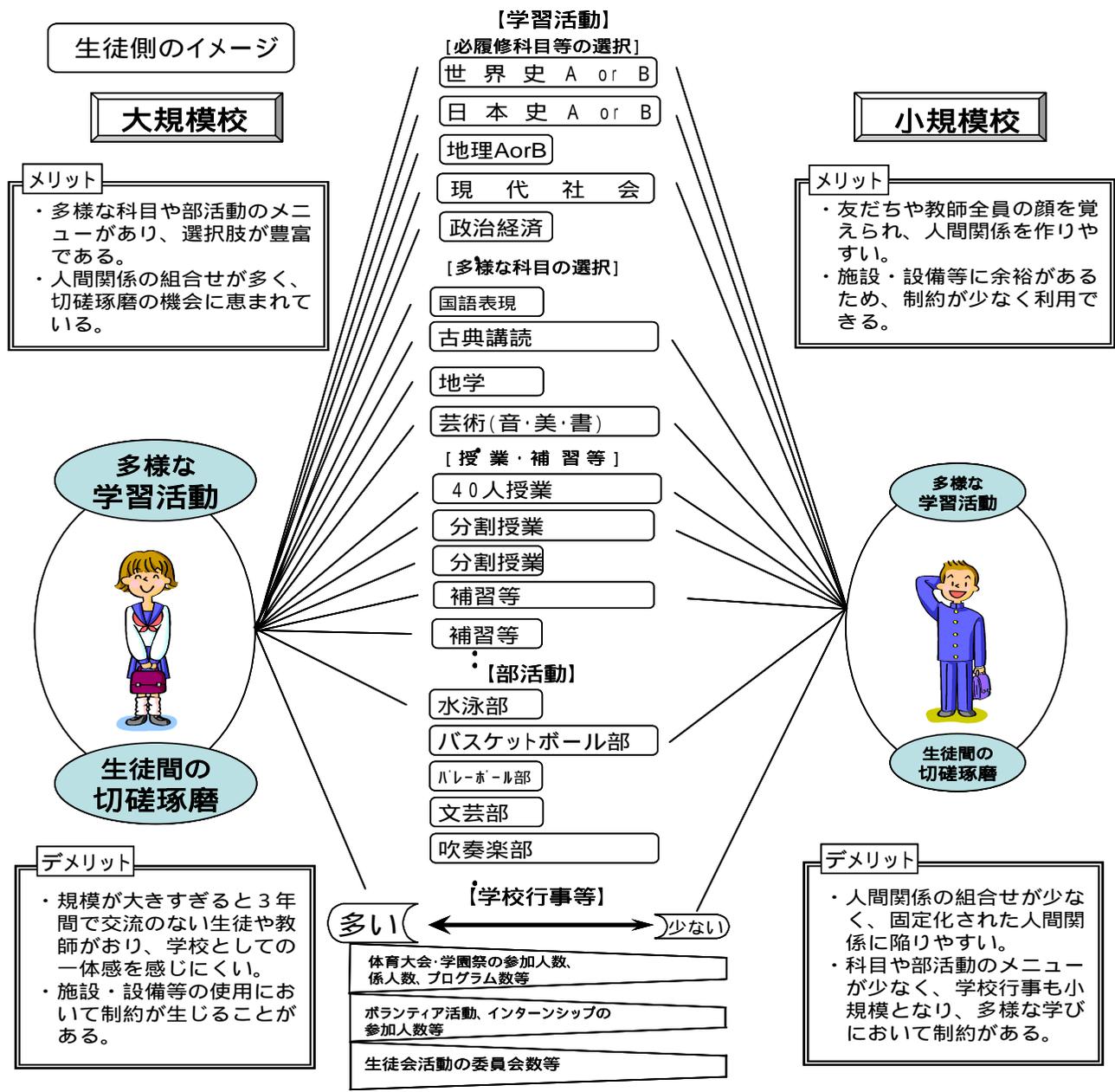
・生徒の学習したい内容や希望する進路と教育内容との間に差がある

・目的意識が不明確で学習意欲に欠けたり、学校生活になじめないなどの生徒が見受けられる

厳しい財政状況

・老朽化する学校施設や設備

・図書や教材、機器、備品などの更新・修繕に十分対応できていない教育環境



【県立高等学校における学級数別の部活動数、学校図書蔵書数の平均値】

1学年あたり 学級数	部活動数		学校図書 蔵書数
	運動部	文化部	
11学級	35.0部	18.0部	29,203冊
10学級	28.0部	11.0部	-
9学級	26.0部	12.7部	33,158冊
8学級	28.5部	13.0部	27,796冊
7学級	24.0部	10.6部	22,728冊
6学級	19.9部	10.2部	23,906冊
5学級	18.9部	9.8部	22,575冊
4学級	17.7部	6.0部	19,415冊
3学級	13.3部	5.8部	12,997冊



図書蔵書数は平成18年度末。部活動数については平成20年度



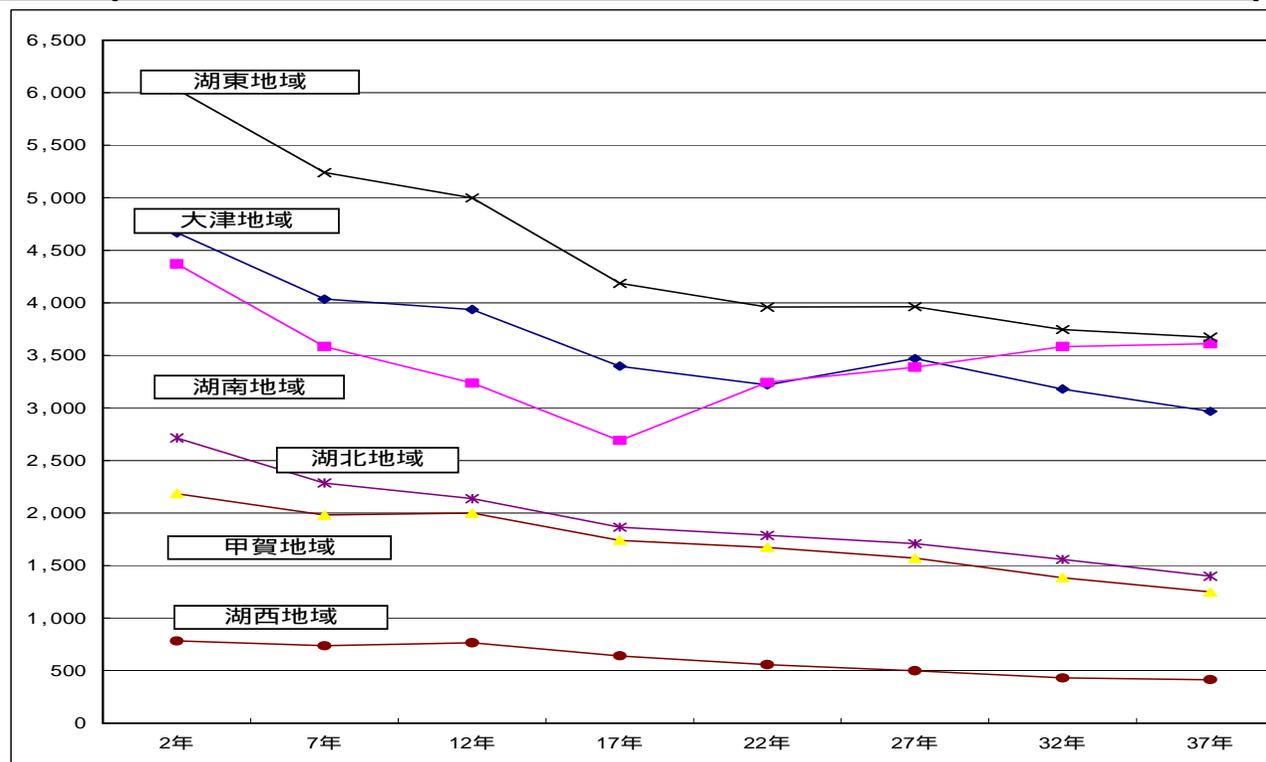
生徒数の減少

どうしてこうした課題に直面しているの？



中学校卒業（予定）者数の推移（地域版）

	2年	7年	12年	17年	22年	27年	32年	37年
大津地域	4,666	4,035	3,935	3,397	3,220	3,469	3,179	2,967
湖南地域	4,371	3,584	3,235	2,689	3,243	3,387	3,584	3,610
甲賀地域	2,184	1,980	1,998	1,739	1,673	1,568	1,384	1,247
湖東地域	6,031	5,239	4,999	4,186	3,960	3,963	3,746	3,672
湖北地域	2,714	2,285	2,136	1,864	1,786	1,707	1,558	1,398
湖西地域	781	736	765	640	557	498	429	414
計	20,747	17,859	17,068	14,515	14,439	14,592	13,880	13,308

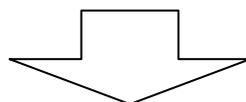


平成23年～平成31年は、平成22年5月1日の学校基本調査による現員
 平成32年以降は、平成22年4月1日付けの県人口推計(統計課)による現員
 旧志賀町は比較のため、大津地域に参入してある

【県立高校の1学年あたり学級規模】

【平成2年度】

学級数	校数	大津地域	湖南地域	甲賀地域	湖東地域	湖北地域	湖西地域
		11学級	4	2			1
10学級	7	2	1	2	2		
9学級	8	3	3		1	1	
8学級	9	1	3	1	2	2	
7学級	7		1		4	1	1
6学級	6			1	2	3	
5学級	2		1			1	
4学級	1				1		
3学級	1			1			
合計	45	8	9	5	13	8	2



【平成22年度】

学級数	校数	大津地域	湖南地域	甲賀地域	湖東地域	湖北地域	湖西地域
		11学級	1	1			
10学級	1	1					
9学級	2	1	1				
8学級	4	1	1	1	1		
7学級	6	2		1	2	1	
6学級	12	1	4	1	3	2	1
5学級	7	1	1		2	3	
4学級	9		2	1	3	3	
3学級	4			2	2		
合計	46	8	9	6	13	8	2

生徒数の減少に伴い、小さな規模の高校が増えています

県立高等学校（全日制）の第1学年募集定員による学校規模（地域別）

【平成2年度】

学級数	大津地域		湖南地域		甲賀地域		湖東地域		湖北地域		湖西地域		
	校数	校数	校名	校数	校名	校数	校名	校数	校名	校数	校名	校数	校名
11	4	2	東大津 膳所					1	八幡(普)10(看)1			1	高島
10	7	2	北大津 大津商業(商)10	1	守山	2	甲西 水口東	2	彦根東 八日市				
9	8	3	堅田 大津(普)7(家)2 石山(普)8(音)1	3	草津東 玉川 野洲			1	河瀬	1	伊香(普)7(農)2		
8	9	1	瀬田工業(工)8	3	守山北 栗東 国際情報(商)4(工)4	1	水口	2	彦根工業(工)8 八幡工業(工)8	2	長浜北(普)7(家)1 長浜商工(工)5(商)3		
7	7			1	草津			4	能登川 愛知 日野(普)5(商)2 彦根西(普)5(家)2	1	虎姫	1	安曇川(普)2(総)5
6	6					1	甲南(普)3(農)1(工)1(家)1	2	彦根商業(商)6 八幡商業(商)6	3	伊吹 長浜 米原(普)4(理)2		
5	2			1	湖南農業(農)5					1	長浜農業(農)5		
4	1							1	八日市南(農)4				
3	1					1	信楽(普)1(工)2						
合計	45		8		9		5		13		8		2

県立高等学校（全日制）の第1学年募集定員による学校規模（地域別）

【平成22年度】

学級数	大津地域		湖南地域		甲賀地域		湖東地域		湖北地域		湖西地域		
	校数	校数	校名	校数	校名	校数	校名	校数	校名	校数	校名		
11	1	1	膳所(普)10(理)1										
10	1	1	東大津										
9	2	1	石山(普)8(音)1	1	草津東(普)8(体)1								
8	4	1	大津(普)6(家)2	1	玉川	1	甲西	1	彦根東				
7	6	2	瀬田工業(工)7 大津商業(商)7			1	水口(普)6(国)1	2	八日市 彦根工業(工)7			1	高島
6	12	1	堅田	4	守山 国際情報(総)6 草津 栗東(普)5(美)1	1	水口東	3	河瀬 八幡 八幡工業(工)6	2	長浜北 米原(普)5(理)1	1	安曇川(普)2(総)4
5	7	1	北大津(普)4(国)1	1	守山北			2	彦根翔陽(総)5 八幡商業(商)5	3	長浜(普)4(福)1 長浜北星(総)5 虎姫		
4	9			2	野洲 湖南農業(農)4	1	石部	3	彦根西(普)2(家)2 能登川 日野(総)4	3	伊吹 伊香 長浜農業(農)4		
3	4					2	甲南(総)3 信楽(普)1(工)2	2	愛知 八日市南(農)3				
合計	46	8		9		6		13		8		2	

社会の
急激な変化

どうしてこうした課題に直面しているの？



進む少子化・高齢化



情報化の進展



グローバル化の進展



科学技術の高度化

産業・経済の急激な変化



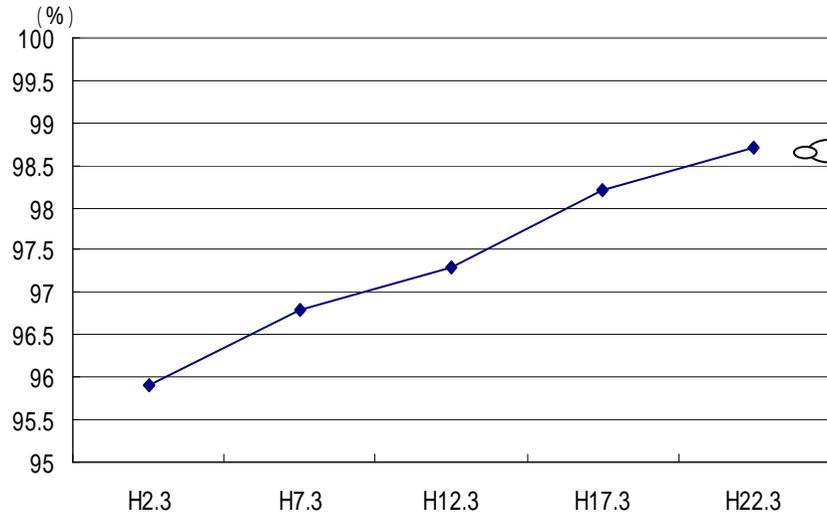
急激な変化に対応できていない

生徒の
多様化

どうしてこうした課題に直面しているの？



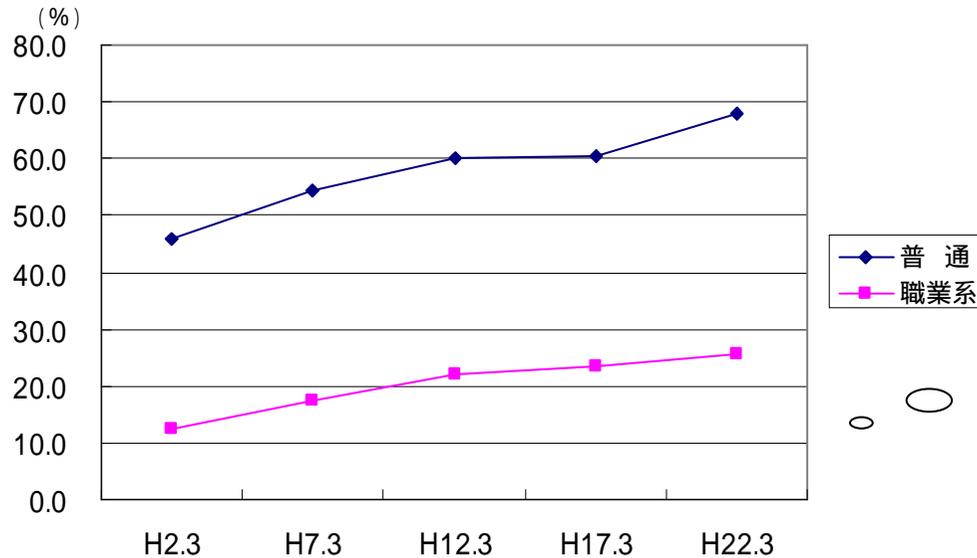
【滋賀県における高等学校進学率】



100%に近づく
高等学校への
進学率

生徒一人ひとりの考
え方や生き方、目指
す進路が多様化して
いる状況に対応でき
ていない

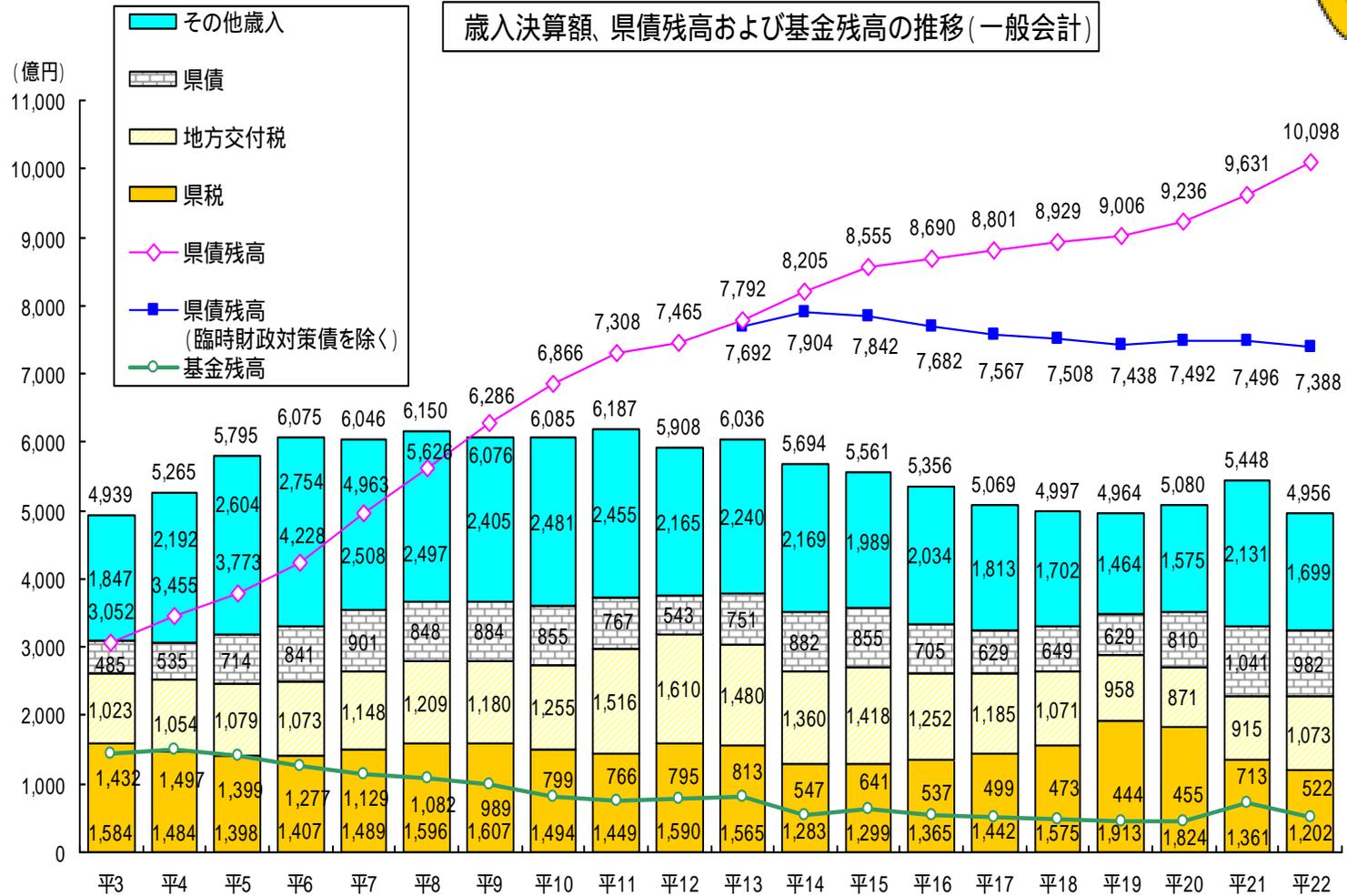
【大学等への進学率】



高まる大学等
への進学率

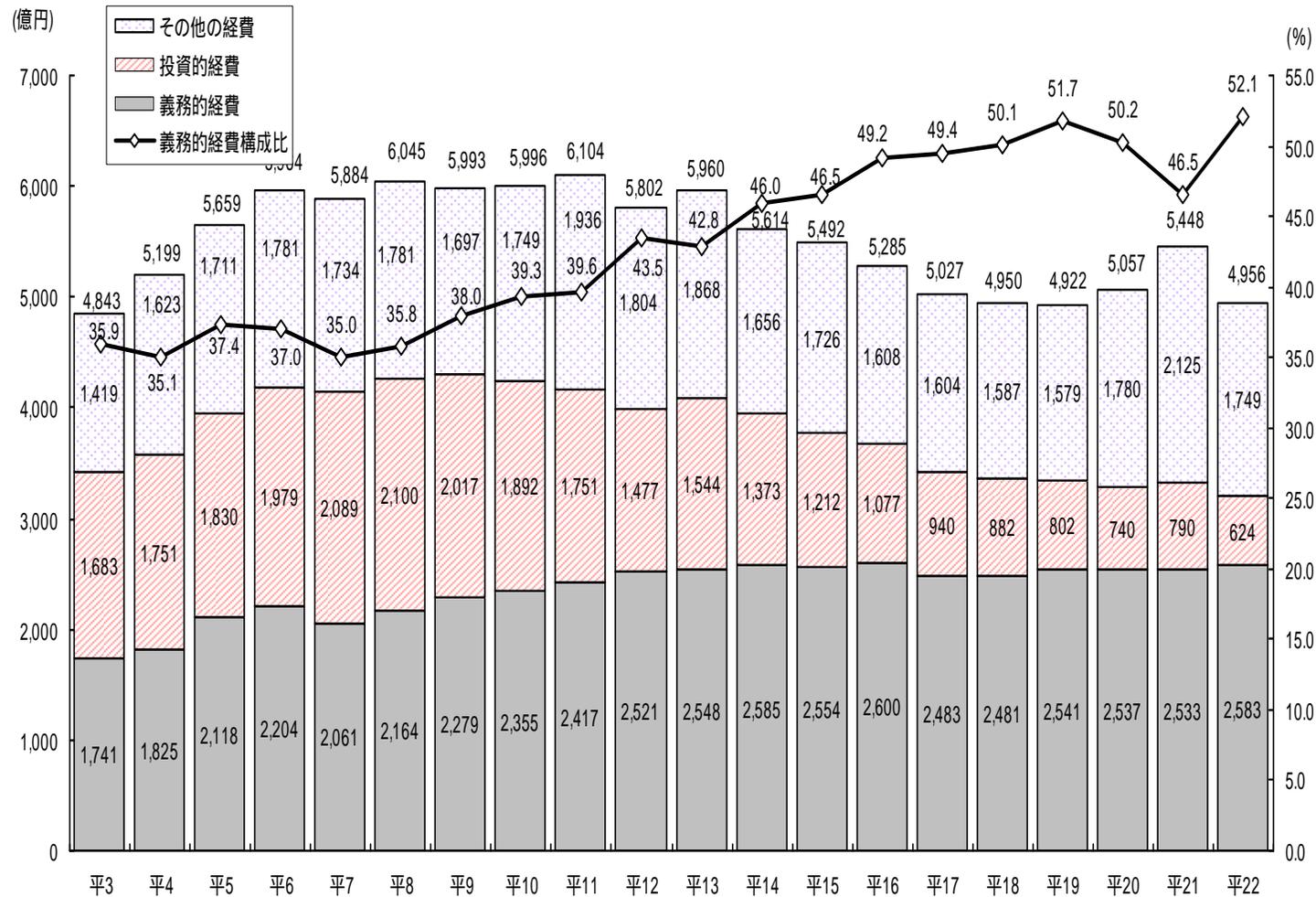
厳しい
財政状況

どうしてこうした課題に直面しているの？



- (注) 1 県債については、借換債を除いています。
 2 平成20年度までは決算額、平成21年度は最終予算額、平成22年度は平成22年2月補正後予算額です。
 3 基金残高は各年度末現在高であり、平成21年度は最終予算額、平成22年度は平成22年2月補正後予算額に基づく各年度末現在高見込額です。
 4 県債残高は各年度末現在高であり、平成21年度および平成22年度は見込額です。

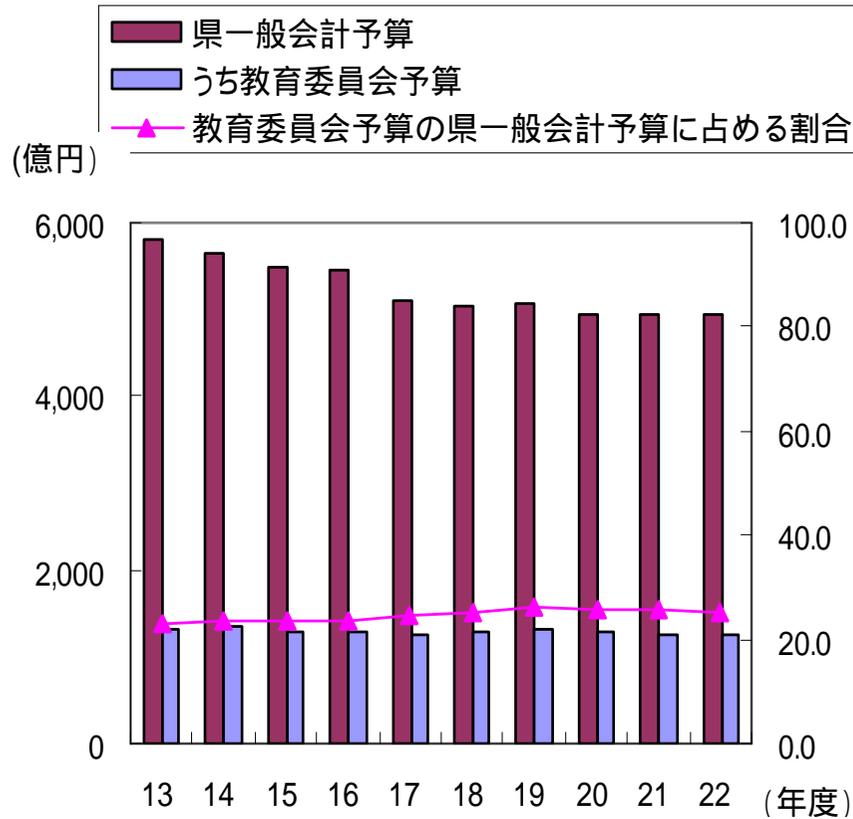
歳出決算額と義務的経費、投資的経費の状況(一般会計)



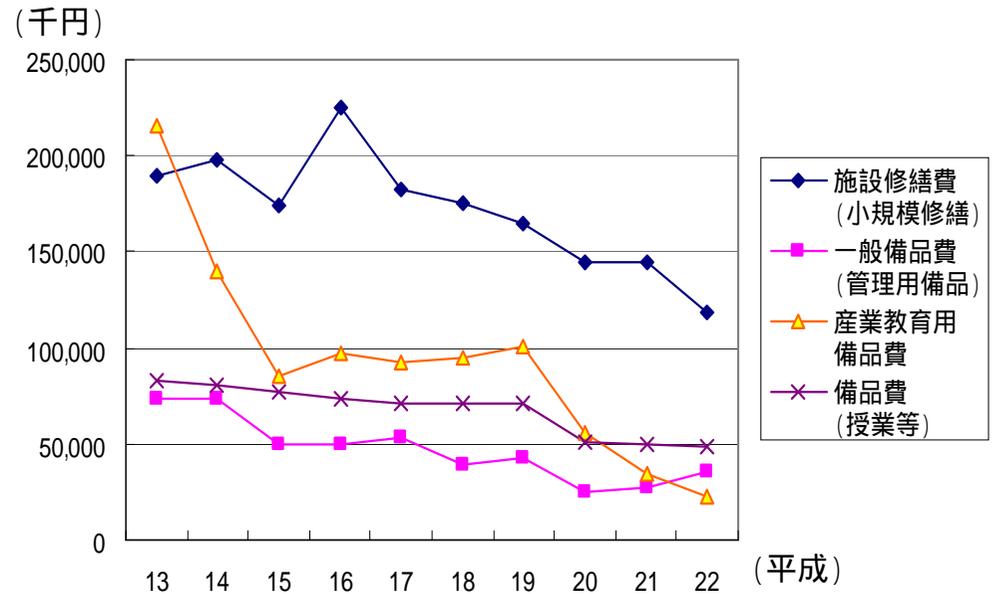
(注) 1 義務的経費のうち扶助費については市町に対するものを除き、公債費については借換債を除いています。

2 平成20年度までは決算額、平成21年度は最終予算額、平成22年度は平成22年2月補正後予算額です。

【予算の推移】



【教育関連予算の推移】



教育委員会予算のうち、高等学校費にかかる予算額から抜粋して作図

危機的な県の財政状況の中、教育関連予算についても確保が難しい

このままだと、10年後の県立高等学校はどうなってしまうの？



特定の地域では、さらなる生徒数の減少が見込まれることから、学校規模が一層小さくなる・小さな規模の学校がさらに増加し、学校活力が低下することが懸念される

生徒数の減少や社会の変化がさらに進行する中において、学科の構成と生徒の志望状況との間に乖離が生じる

県財政の大幅な改善は見込まれず、施設・設備面での環境改善がさらに遅れる

どうすれば、県立高等学校を取り巻く状況が改善するの？



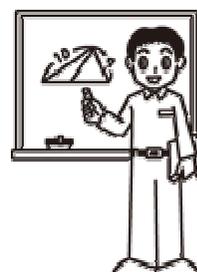
多くの友人・教師に接し、互いに切磋琢磨しながら、豊富な部活動・学校行事の中で学校生活を送ることのできる環境づくりが必要

多様な選択科目を提供するなど、生徒が興味・関心を持ちながら積極的に進路実現に向け学習できる環境を整えることが必要

限られた教育資源を最大限に活用しつつ、より効果的・効率的な学校運営を行うことが必要



社会が求める人材を育成し、生徒の志望状況・学習ニーズとの乖離を解消するため、学科や教育内容の見直しが必要



限られた予算の効果的な集中投資などにより、豊かな教育環境の整備を図ることが必要



魅力と活力ある学校づくりを目指した統合・学科改編など県立高等学校の再編が必要

滋賀県教育委員会では、県立高等学校の再編に向け、
どのような取り組みを進めているの？



県立学校のあり方検討委員会

平成21年3月「報告」

<抜粋>

今後の県立学校のあり方

1. 課程のあり方

全日制課程	学校の統廃合も含めた学科構成・規模・配置の見直し	
定時制課程	北部	定員充足に向けた統廃合
	南部	より生徒のニーズに合った学校への再編の検討
通信制課程	現状で受入れ可能今後の状況等を踏まえ検討	

2. 学科のあり方

全体方針	定員割れや重複する学科の統廃合 学科バランス(普職比率)の検討
普通科	一定規模が確保できない場合の学校の統廃合 コース・類型の見直し
普通系 専門学科	全県的な規模の見直し
職業系 専門学科	学校・学科の統廃合による集約化 県産業教育審議会での審議
総合学科	系列(開講科目等)の見直し

3. 適正な規模のあり方

学級定員	40人
適正規模	概ね6学級から8学級程度 交通の利便・地域事情への配慮は必要 平成30年度あたりを目途に適正規模化
小規模校	統廃合に関する具体的な方策の検討
大規模校	学級数の削減

4. 適正な配置のあり方

学科の特性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 県の産業振興方針や地場産業との連携等への配慮 高等養護学校との連携への配慮
地理的条件などの地域性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 県公私立高等学校協議会での協議

5. 特別支援学校のあり方

短期的対応	学級の編成や教室転用などによる一層の工夫 現有の施設を有効に活用する方策の検討
長期的対応	各学校の教育環境の詳細調査の実施 増改築や他の既存施設活用の必要性の検討

滋賀県教育委員会では、県立高等学校の再編に向け、
どのような取り組みを進めているの？



<抜粋>

滋賀県産業教育審議会

平成22年9月「答申」

職業学科全般

高等学校で完結し卒業後すぐに就く職業に結びつけるための教育をより確かなものとしていくことと、同時に、さらに高度な知識・技能を身につけ将来の専門的職業人として活躍できる人材の育成を目指す高等教育機関へ接続するための教育についてもしっかりと整えることが必要である。

現状では細分化されすぎている小学科を整理・統合し、学習内容を理解しやすい名称とするとともに、既存の施設・設備の効率的な活用や集中的な投資を行うことも視野に入れ、学校間での小学科の再編や複数の小学科をまとめて募集することなど、多様な観点から検討していくことも必要である。

教育活動の横のつながりを意識した職業教育の枠組みについても工夫していくことが望まれる。

各学科ごと

農業学科・・・農業を学ぶ意欲にあふれた生徒集団による学習が可能となる方向での検討が必要。本県の産業構造における農業の位置づけを踏まえたうえで、農業教育の在り方や学科の枠組み等についての検討が必要。

工業学科・・・本県産業界に貢献する人材育成のため、学科の在り方に関して幅広い検討が必要。学校間での小学科の再編を視野に入れるとともに、小学科を大きく機械系、電気系、建設系、化学系の4本柱でまとめることや、高等教育機関への接続を視野に入れた、教育内容の工夫をすることが必要。

商業学科・・・産業・社会構造の変化の中で様々な課題に対応していくよう、複数の小学科をまとめて募集することや、教育課程をはじめとした教育内容の工夫をすることが必要。

家庭学科・・・将来の専門的職業人の育成につながる教育課程をはじめとした教育内容の工夫、家庭学科卒業後に学んだ知識や技術が活用できるようインターンシップ等による体験学習の一層の充実を図ることが必要。各校の実情や課題に応じた学科の在り方について検討を。

福祉学科・・・介護福祉士養成課程設置校としての教育活動のさらなる充実を図ることが必要。社会のニーズの高まりを勘案し教育内容の充実を図るための工夫が必要。

総合学科・・・地域や県全体の状況を見据え、系列の見直しも含めた学科の在り方や教育内容を検討することが必要。系列の名称も中学生や保護者から理解されやすいものとなるよう改善することが必要。

定時制職業学科・・・社会の変化などを踏まえ、職業学科としての必要性があるかどうかという観点も視野に入れながら、今後の在り方について改善の方向で検討することが必要。

滋賀県教育委員会の再編に対する基本姿勢を教えて

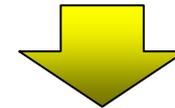
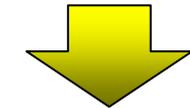


滋賀県の学校教育を取り巻く環境に適切に対応した、魅力と活力ある学校づくりに努めます。

そのため、学校活力の維持向上ならびに教育内容の質的向上を図ることを念頭に、統合や学科改編を含めた県立高等学校の再編に取り組みます。

学校活力の維持向上

教育内容の質的充実



魅力と活力ある県立高等学校づくり

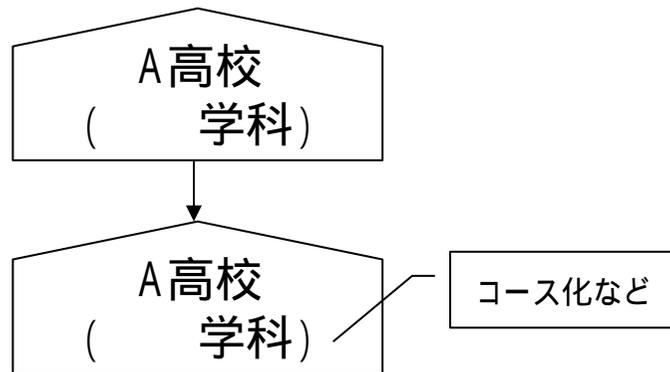
ほとんどの都道府県では、既に高等学校の再編(統合・学科改編等)が進んでいます

再編のイメージを教えて

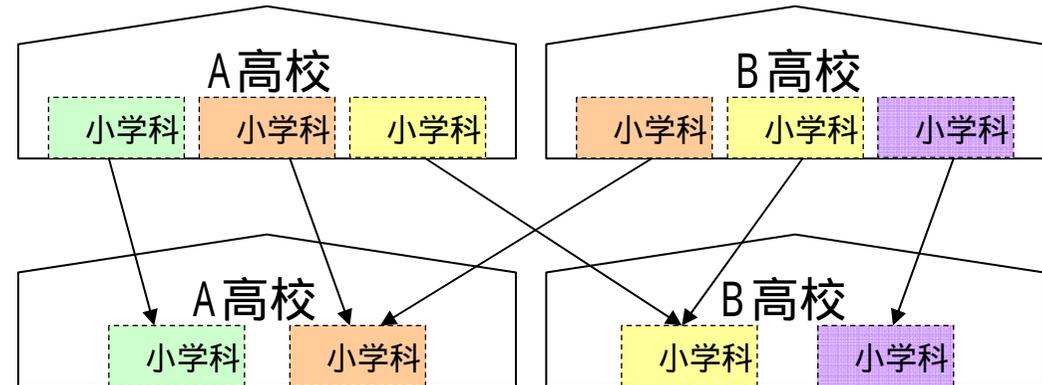


< 例 >

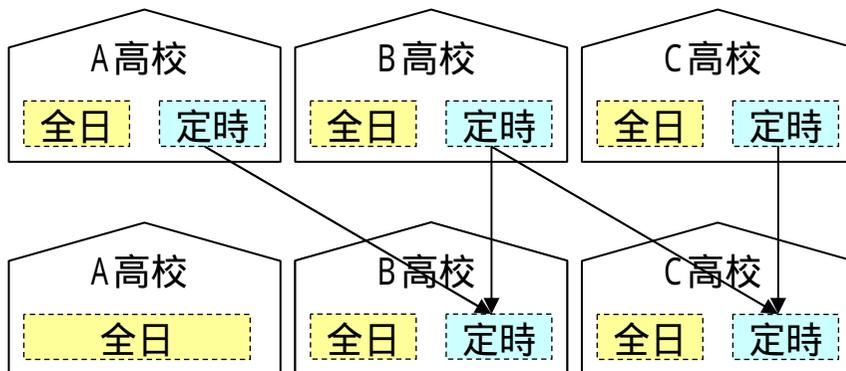
学科改編等



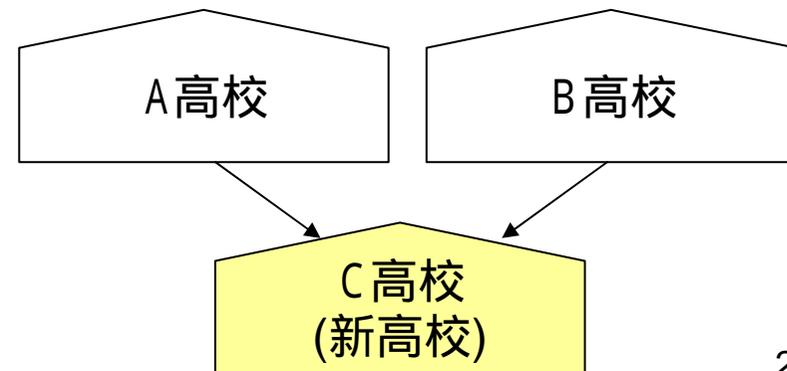
学科集約



課程集約



学校統合



再編の具体的な考え方を教えて



特色ある学校づくり

・生徒の多様な学習ニーズや地域・産業界の要請などに応え、多様な学びの場を提供するため、特色ある学校や学科・コースを設置することにより、教育内容の充実を図ります。

バランスのよい学校配置

・全県的な視野で、学校・学科の配置や、普通科・専門学科および総合学科の構成バランスに配慮しつつ、近接する同質系の学校・学科を再編するなど、バランスのよい学校配置に努めます。

活力ある学校づくり

・学科の特性や地理的条件などを考慮するとともに、生徒数の推移や志望状況等に配慮しながら、1学年あたり概ね6学級から8学級を標準とします。
・学校規模の縮小が進む地域においては、地域性などを考慮しながらも、周辺校との再編により、学校活力の向上を図ります。

職業系専門学科・総合学科の再構成

・施設・設備の効率的な活用や集中的な投資などにより、専門性を維持向上できるよう、職業系専門学科の集約化を図ります。
・各学校の特色を生かしつつ、学校の統合や学校間での小学科の集約、学科の再編を実施します。

最終的には、県産業教育審議会「答申」を踏まえる

定時制課程の見直し

・様々な学習動機や学習歴を持つ生徒が増加傾向にあることを踏まえつつ、現在の定員未充足の状況を改善し、集団の中で活力ある学びが可能となる方向での再編を行います。
・学び直しの役割等が重視されつつある状況を踏まえ、定時制課程における職業学科の必要性を一定見直します。

県民の皆さんからの意見にはどんなものがあるの？



県民意見聴取会(大津市・米原市)やHPなどでいただいている主なご意見

交通の利便性が悪い地域から高校がなくなると、通学費も含め保護者や生徒の負担が大きくなる。生徒数が減少する中で、再編の必要性は一定理解している。地域に高校があることによって、地域・住民は力をもらっている。再編にあたっては、十分に地域性を考慮していただきたい。

小さな規模の学校にもメリットはある。友人や教員一人ひとりの顔が見える密接な人間関係の構築が可能であり、また、教員が生徒一人ひとりにきめ細かな指導を行うことができるのでは。

今後10年くらいは、急速に生徒数は減少しないのではないか。平均学級数も全国平均を上回っているため、10年後なら理解できるが、なぜ今、急いで再編をしようとしているのか。

県民との議論は始まったばかり。まだまだ周知されておらず、今後も、こうした説明の機会を持つこと。周知を徹底し県民等から意見を聴いた上で再編を進める必要がある。拙速に結論を出してはいけない。県の財政状況を理由にするのではなく、次代を担う子どもたちの将来を見据えた再編でなければならない。

再編にあたっては、子どもたちが学びたい、学んでよかったと思う活力ある高校をつくっていただきたい。魅力と活力ある県立高等学校づくりのためには、従来にない新しいタイプの高校を創造していくことも発想のひとつではないか。

定時制高校には、従来からの勤労生徒や経済的に困難な生徒に加え、最近では、中学校時に不登校であった生徒、学力の低い生徒、外国籍の生徒、全日制高校からの転・編入学の生徒など多様な生徒の受け皿の役割を担っていることから、1学級の定員を少なくしてほしい。

北部の定時制高校については、地域性を考慮していただきたい。

選択科目数の問題については、学校の規模の問題ではなく、大学入試に伴う制約の問題である。大学入試で制限がなければいろいろな科目が用意できる。

再編(統廃合)の必要はない、反対。現行の学校数を減らさないでほしい。

生徒数の減少傾向・県の厳しい財政状況等から再編は必要・やむを得ない。

今後のスケジュールを教えてください



【再編計画策定までのスケジュール】

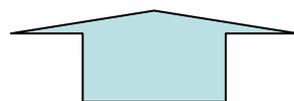
平成22年9月 滋賀県産業教育審議会「答申」

答申以降、再編計画の策定を目指します

魅力と活力ある県立高校づくりを進めるために



特色ある学校づくりや魅力と活力ある学校づくりを実現するためには何が必要か？



皆さまのご意見をお願いします